

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 409

事務事業名	キリシタン史跡観光整備事業
-------	---------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	商工観光部		
課名	観光振興課		
課長名	杉野 幸夫	内線	471
担当者名	榎田 百合子	内線	242

基本目標		活力に満ちた産業のまち
政策	040402	歴史や自然を活かした観光のまちづくり
施策		観光客受入体制の整備
関連施策		

会計	一般会計	
款	7	商工費
項	1	商工費
目	3	観光費
事業コード	050700	キリシタン史跡観光整備事業

事業類型	6	施設維持管理(補修)事業(任意)
個別計画	観光交流都市づくり計画	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	キリシタン巡礼を中心とした韓国からの訪日観光客及び国内観光客		
意図 対象をどのような状態にしたいか	国内外からの観光客に対し、施設について明確で丁寧な情報を伝える。 山道を登り「仏の谷」へと向かう利用者に対し、利便性と安全性の向上を図る。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	市内各箇所でのキリシタン史跡について、以下の整備を行う。 <仏の谷> 平成26年度に整備した山道が継続的に安全に機能するよう、山道の清掃や簡易な修繕(地元委託)などを行う。 <市内キリシタン史跡> 史跡についての説明を国内外からの観光客が理解できるよう、多言語の説明版を整備する。 史跡に行くための標識が不十分で分かりにくいいため、多言語の誘導案内看板を整備する。		
事業期間	平成 26 年度 ~ 平成 年度	実施方法	
根拠法令、要綱等			
国・県補助事業に係る本市単独施策			

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 看板整備箇所	計画値		3	9	6	
		実績値		3	8		
	キリシタン史跡の看板整備箇所	達成度	%	100.0%	88.9%		
		計画値					
成果指標	① ボランティアガイドによるキリシタン史跡の案内者数	計画値		300	300	1,000	
		実績値		1,454	276		
	おおむら歴史観光ボランティアガイドの案内実績人数	達成度	%	484.7%	92.0%		
		計画値					
② 仏の谷等のキリシタン史跡を含む観光モデルコース	計画値	件		4	4	4	
	実績値			4	3		
	達成度	%	100.0%	75.0%			

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	0	5,494	1,458	1,705	1,115	1,115	1,115	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源		5,494	1,458	1,705	1,115	1,115	1,115	
② 人件費(千円)	0	1,663	1,058	887	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)		0.22	0.15	0.12	山道の清掃や簡易な修繕対応、仮設トイレの設置及び管理	山道の清掃や簡易な修繕対応、トイレの整備及び管理	山道の清掃や簡易な修繕対応、トイレの管理	
時間外勤務(時間)				7				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	0	7,157	2,516	2,592				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	仏の谷訪問者の安全確保のため、平成27年度から山道の点検、整備を委託している。 平成27年度にキリシタン史跡8ヶ所において多言語表示看板を設置し、観光客の誘客に努めた。 平成28年度内には市内2カ所にキリシタン史跡への多言語誘導案内看板を設置する。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	仏の谷山道の安全性が豪雨などによって影響を受けないよう、各箇所適切な工作物の設置を行う必要がある。また、キリシタン巡礼者の増加に伴い、トイレの整備や駐車場の確保が課題となっている。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	国内及び韓国等からの誘客を図るためには、多言語版の看板設置や仏の谷山道の維持管理を含めた整備等の受入れ環境を整える必要がある。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市が誘客を図るうえで、魅力的な観光資源である「仏の谷」のPRや山道等の整備に、市が関与することは妥当である。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	「仏の谷」の受入れ環境整備を行うことで、市内のキリシタン史跡等を巡る新たな観光コース作りを行うことができ、新たな誘客と既存観光客の滞在時間の増加につながり、市内での物産品等の消費拡大等が見込まれる。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	整備にあたっては、実施箇所を必要最低限に絞っており、山道の維持についても地元住民に環境整備委託を行うことでコスト削減を図っており、これ以上の削減余地はない。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	東アジア(特に韓国)からの誘客に取り組む中で、受入れ環境の整備を行うことは施策貢献度が高い。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入していません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	拡充
--------	----

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	仏の谷現地までの山道を安全に散策ができるよう継続して環境整備委託を行うとともに、キリシタン史跡周辺にトイレの整備や駐車場確保を検討し、進める。
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	市内のキリシタン史跡を含んだキリシタン巡礼コースの商品を開発につながり、国内外からの観光客の誘致を図ることができる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象	今後の方向性	現状維持
	終期設定				終期設定		
	意見等				内容	トイレ及び駐車場の整備は、現時点では不要と考える。 ただし、トイレについては、必要性をもう一度検証し、必要であれば仮設トイレで対応するなど今一度検討すること。	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。